

1. 授業担当教員

教授 谷野美智枝、高澤啓、小林博也、横尾英樹
 講師 湯澤明夏、小山恭平、庄中達也 助教 後藤正憲、高橋裕之
 連絡先 内線 3392 E-mail mtanino@asahikawa-med.ac.jp

2. 授業科目の授業内容および講義日時**【特論】（選択2単位）**

（目的 概要） 「なぜ病気になるのか？（病因）」 「その病気はいかなるものか？（病態）」 「その病気にかかると人はどうなっていくのか？（経過と転帰）」 などの問題を説明するために臓器・組織の形を肉眼でよく見て、さらに顕微鏡を使って細胞を詳細に観察して、正確な病理診断をくだすために、代表的な悪性腫瘍と炎症性疾患の発生メカニズム、最新の診断、治療の現況を理解する。その知識を病理、細胞診断、遺伝子診断に応用可能となるように講義を展開する。「病理専門医」、「分子病理専門医」、「細胞診専門医」などのがん診療に関する専門医資格取得のための知識を習得することができる。

○参加可能プログラム

大学院講義 随時
 臨床症例検討会 随時

【特論演習】（選択6単位）

（目的 概要） 上記の目的を達成するために、分子生物学、遺伝学、免疫組織化学、微生物学、形態学などの基本的知識を得るとともに、個々の基本的手技を修得する。これらは「病理専門医」、「分子病理専門医」「細胞診専門医」などのがん診療に関する専門医資格取得に必要となる。

- ①悪性腫瘍の病理細胞診断と治療法
- ②遺伝子診断に関しFFPE検体からの核酸抽出、遺伝子解析、解析結果の理解
- ③迅速免疫組織化学染色に関わる技術の取得と臨床応用
- ④組織マイクロアレイの作製と免疫組織化学染色による解析

研究グループへの参加 随時

【特論実験・実習】（選択4単位×3）

（目的 概要） 癌の発癌メカニズムおよび進展、転移機構、予後因子を分子生物学的、細胞生物学的、形態学的手法を用いて解析し、早期発見、病理、細胞診断、遺伝子診断への臨床応用に向けた研究を行う。また、その実際の臨床応用のための、validationを行う。

○参加可能プログラム

研究グループへの参加 随時
 大学院講義 随時
 研究セミナー 随時

【論文作成演習】（選択4単位）

（目的 概要） 論文の作成を通じて、必要な情報を収集し、実験結果を分析、理解するとともに、一定の構想を練り上げたうえで、全世界に発信できるように英語で論文を作成できる能力を身に付けることが目的である。このために、科学的な論理構成能力、英語論文の批判的読解能力、統計学的処理能力、口頭発表、討論能力に重点を置く。

○参加プログラム

演習： 文献や論文の内容について、随時、指導教官の指導を受けながら論文を作成し、適切な学会発表の機会を設ける。
 抄読会：随時

3. 授業方法

小人数制とする。受講者同士および教員との交流を深めることにより受講者の理解を助けるために、できるだけ討論の場を設けながら進める。可能な限り、事前に参考文献により予習を行い授業に参加できるようにする。

4. 成績評価基準

特論・特論演習： 学問的探究心、学問的素養を考慮し、口頭試問によって判断する。
 実験実習： 科学論文を作成するに足る実験結果を得られたかにより判断する。
 論文作成演習： 実験で得られたデータを分析し、学位論文として提出できたか否かにより判断する。

5. 講義室

原則として、病院病理部において実施するが、プログラムにより異なる場合もあるので、受講前に確認すること。

6. その他

演習と実験実習の参加者は少人数とする。